

寢する家は朝日が取り巻いて貧乏神の出所もなし」とは秋田縣の岩川理喜之助翁の道歌と承る。世の中には日の出を見たことが無い人があり朝寢をしても夜遅く眠れば睡眠時間に違ひは無いと之れは西洋風の人。尤も程度による問題であるが弱い人も徐々に朝起きなして丈夫になる人は多い。これは東洋からの古風と思ふ、春陽がカ／＼か

日なたの畑

耕地 去年の秋、幼稚園に隣接した空地を百坪あまりいただいた。垣根なしの空地の間が數年もつゞいてゐたので、場末の空地そのまゝで、塵埃の捨てどころになり、石炭ガラ、瀬戸物のカケラ、石、瓦のカケなどといつ耕作に出来る土地になることかと考へた。

それでも強い雜草はその荒れ土の間から生ひ茂つて幼児たちの背丈以上にものびてゐた。この荒地開墾の仕事は私共素人には

げらふにほひ日傘をさして歩く人をあやぶむ又幼稚園の中にも庭園に重きを置かで建物さへあれば保育出来るものと心得て居らるゝ向きもあるやうに見受る而して其建物の中にも光線は餘り入らぬやうでは全く子供のもやしが出来まいかと憂ふのであります。(筆者は青森幼稚園主任)

及川ふみ

手の下しやうもないので先づ第一に園藝の大岩先生の御指導を仰ぐ事にした。

第一雜草取り、第二石、カケラ、石炭ガラなどを取りのぞく事。

この二つの最初の仕事を教つた。

十月八日大詔奉戴日に全園幼児たち、雜草取りをする事にした。一組三十分位交代で仕事を始めると幼児たちはこの頃の幼児だけに、勤勞奉仕だと喜んで雜草取りをする。強い雜草だけに根が堅くてなか／＼安

安とは取れない。頭の前だけチョンギルの澤山にあるがとにかく幼児達は喜んで働いてくれる。それに空地一面に、一日中日が當つて一日畑にゐただけで日やけする位であつた。半ば枯れた雜草取りを數日つけて焼いた。根が深い雜草は鋏で掘つて掘つてなか／＼掘り出されないで保育科の生徒も我々保母もなか／＼の雜事であつた。やうやく雜草の仕末がついて今度は石ころ、瓦カケ、瀬戸カケの始末である。

又幼児たちの勤勞奉仕が始められた。空箱、塵取り、植木鉢とてんでんに入れ物をもつて來たり或は兩手にもてるだけの石ころをもつものもあつたりして大勢の幼児たちは石ころ掘びに又數日働いてくれた。力は弱くて一人の一回の掘ぶ量はほんとにささやかなものであるが全幼児の延人數百八十人の數日の働きは目立つて片づいた。

六坪ばかり限られた場所を深さ三尺ばかり保育科の生徒により掘り下げられた。この穴に石カケその他の雜物は皆埋められてやうやく耕地として第一段階に入つたやうになつた。次の仕事は校内の數町隔つたところの土を運搬する事であつた。十人たら

保育實習科入學募集

東京女子高等師範學校保育實習科入學募集については、十一月二十三、四日頃の官報に（専門學校入學募集に關する文部省の告示中に）文部省から告示せられる趣であります。

出願期日、昭和二十年一月十日より二十日まで

第一次選拔發表、二月九日

筆答試驗、二月二十一日

身體検査、口頭試問、二月二十二日と定められてゐますが、詳細は東京女子高等師範學校昭和二十年度入學募集便覧によつて承知せられたく、郵券を添へて同校（東京都小石川區大塚町三十五）教務課へ請求せられるれば送付を受けられる筈であります。本年度から例年と異つた試験が行はれ、筆答試験も特に準備を要せず、平素の實力によつて査定せられる方針であり、勤勞動員を考慮せられての新制だと聞いてゐます。

（編輯部）

二の作地を作ることにした。

土運び、腐葉土運びを又開始した。幼児もだん／＼に土運びも上手になつて途中でこぼすことも少くなつてきた。こゝは畑中一番日當りもよく風よけもあるのである。う豆を植ゑることにする。豆はこの計畫のもとに便宜上小さい鉢に十月二十日に種を蒔いておいたのが大分大きくなつてゐて小鉢に根がすつかりまわつてゐたので、そっくりそのまゝ畑に移した。霜よけに枯枝を一つづゝたてゝこゝに第二の作物えんどう豆が三〇株植ゑつけられたのである。十二月二十日すぎにやうやく畑の仕事を一段落として、幼児たちの勤勞奉仕も大人の農耕作業も冬期休業に入つた形になつたので、植ゑつけたキャベツえんどう豆の寒さにいたまない様にとひたすらそれを念じつゝ、越年することになつた。

（筆者は東京女高師附屬幼稚園主任保母）

又幼児たちの勤勞奉仕は腐葉土運びとなつた。バケツ、塵取りで、一人の幼児が三回づゝ運ぶことにした。一町餘りの間を三往復するのであるから相當働きがあつたやうである。

植附 幼児たちの搬んだ腐葉土と大人が搬だん土とでやつとこの六坪ばかりの美しい土が出来た。これには七十本のキャベツの苗を植ゑた。一本一本に小篠を立てゝ風よけにした。

丁度これが十一月の末でキャベツの二度目の移植期のものをいたゞいて植ゑたわけである幼児と同様に植ゑると同時に丸く球になる季節をいつかと待遠しく大岩先生に伺ふと五六月頃との御話であつた。その間無事の成育をひたすら祈つた。

次に坪きわの南のところ三尺幅、に長さ七間の場所に又石炭ガラを掘りおこして第